

幡多地域アクションプランフォローアップ会議の概要

日 時：平成21年9月4日10:00～12:00

場 所：幡多クリーンセンター2階会議室

1. 議 事

(1) 全体スケジュール等について

- ・フォローアップ体制・組織について説明
- ・フォローアップ組織等の活動スケジュールについて説明
- ・アクションプランに事業を追加する場合の流れを説明
- ・高知県産業振興推進総合支援事業費補助金の活用手続きについて説明

(2) 地域アクションプランについて

1) H21年度の取り組みの進捗状況について

- ・幡多地域でのフォローアップ体制、地域資源活用共有会議、注目すべき動き、今後の重点的な動きなどを総合的に説明
- ・幡多地域37項目の上半期の進捗状況について、個々に説明
- ・幡多地域での高知県産業振興推進総合支援事業費補助金の活用状況を説明

2) H21年度・22年度の追加に向けての検討項目について

- ・21年度追加項目なし
- ・21年度修正項目としてNo.8「中山間地域の保全と活性化」を事業主体別に2つに分割
- ・22年度追加予定項目としてサメ漁業復活に向けた取り組みなど5項目を追加予定

【意見交換】

- ・No19「資源管理型・つくり育てる漁業の推進」で佐賀地区の中層漁礁設置ということが出ていたが、どのようなものか。海底漁礁の方が効果があると思う。
- フロートや漁網などを使った手作りのものを想定している。設置についても地元の漁船で行い格安で実施するもので、費用対効果も考えた上での事業となっている。
- ・海が荒れた際に流出することのないように留意してほしい。
- ・37項目について、ABCの仕分けと◎○△の仕分けがあるがこの違いは何か。
- 昨年度37項目を挙げたときに、事業がどれだけ具体的にになっているのかで仕分けしたものがABCで、事業を具体的に進めていくスケジュールに着目して、今年度の第2四半期までの進捗がどうなっているかを判断したものが◎○△となっている。
- ・雇用に着目した時に、この計画で有効求人倍率がどうなるとか具体的に目標数値を掲げているのか。
また、中山間地域の人口減にも着目して、県として支援をしていく場合に一定期間その市町村に定住して支援をするという考えはないか。
- 計画は雇用の拡大と所得の増大を目的としている。地域アクションプランも成長戦略も県の産業振興総合補助金や既存の補助制度、あるいは国の様々な制度をできるだけ活用して、雇用拡大と所得増大につながる様々なアイデアを少しでも実現につなげ、産業を作っていくというもの。県全体の指標はつくっていない。
人材の確保については、各地域に地域産業振興監をはじめ、地域支援企画員や出先機関の職員が市町村の職員とも協力しながら事業を進めるサポートをしている。また、産業振興のアドバイザー制度も作っているので是非活用をしていただきたい。
- ・県産材の利用について、学校をはじめとする公共施設にできる限り県産材を利用していきたい。
また、木質バイオマスの利用について、須崎のセメント会社のような企業を幡多にも誘致して地元で使うということは考えられないか。
- 公共施設への県産材利用促進には平成16年度から取り組んでおり、今後も引き続き取り組んでいく。企業を誘致しての木質バイオマス利用というのはなかなか困難と考えられる。輸送コストについて国の補助制度も考えられているようなので、それを活用して域外への輸送ができるよう考えていただければと思う。
- ・次年度の追加事業についてこの5項目は既に決定されているのか。
また、具体的な事業費が記載されているものとそうでないものがあるか違いは何か。
- 追加事業については案として諮っているものであり、この会議を経て県のフォローアップ委員会に諮ったうえで決定となる。次回12月の会議にはもっと具体化したものを改めて検討していただくことになる。
個々の事業については、構想段階のものから具体的な事業費を挙げているものまで様々な状況である。
- ・国の政権も交代し制度もどうなるか不透明な状況にある。県としては産業振興計画に載っている事業については、すべてやるという決意があるのか。
- 個々の事業については市町村をはじめ地域の皆さんが、県のアクションプランに載せて実施していくもので、県は補助金の活用や人的な面でできるだけ支援をしていく。
- ・No18「四万十川の資源を活かした環境ビジネスの創出」でスジアオノリの養殖を研究しているようだが、田んぼをつぶしてそういう施設をつくったり、養殖で品質がおちる懸念もあり、基本的には反対である。現場での協力などはしているがこの研究はいつまで続くのか。

- 進捗状況は△となっているが、高知大学と連携して四万十市で養殖実験をやっている。実験はある程度成功しているが、今後どうしていくかは漁協や関係者の方々と検討していく必要がある。全体にメリットがあるような形で考えていかねばならない。
- ・ 県一漁協の取り組みには県の方々の努力に感謝している。今後県一漁協の取り組みが進んでいくかは、当事者の我々の努力次第と思っている。産業振興計画の取り組みも当事者の協力や努力が必要だと思う。

(3) 産業成長戦略について

1) H21年度の取り組みの進捗状況について

- ・ 県庁内の推進体制について説明
- ・ 地産外商公社の内容について説明
- ・ 地域産業振興アドバイザーの配置などその他の支援策について説明
- ・ 広報活動の状況説明
- ・ 産業成長戦略の進捗状況説明

【意見交換】

- ・ 首都圏のアンテナショップについて具体的な場所は決まったのか。銀座にこだわる必要はなく、神奈川や千葉など先行県と違った形で考えられないか。
また、レストラン機能もあると聞いているがどうなっているのか。
- 場所はまだ決定されていない。銀座や新橋などにこだわっているのはアンテナショップ自体の売上ではなく、モノを売るためのトレンドをとらえるための一番高いアンテナになれる場所ということ。
- レストランについては、実際に高知のものをその場で食べてもらいファンになってもらうことも必要ということで、機能は持たせることになっている。具体的な規模などは場所が決まってから。
- ・ 小規模な事業者は一人で何役もこなしながら事業を行っており、色んな支援制度についての情報もとれないし、具体的に活用することも困難。地域支援企画員には是非そのあたりを支援してもらいたい。
- 地域支援企画員には具体的な問い合わせをしていただきたい。それに応えられるように地域支援企画員も努力していく。